

弓ヶ浜セミナーコーナー

■弓ヶ浜セミナーについて

弓ヶ浜セミナーは、米子高専における研究の交流を目的に2013年11月に第1回を開催してから、これまで合計9回実施しました。講演して頂く方は、研究分野の異なる聴講者を前提に、研究の背景から先端の話題について入念な準備の下で、発表して下さっています。2016年は3月と9月にセミナーを実施しました。また9月のセミナーからは、今年度発足したリベラルアーツセンターにもご協力頂きました。今後はさらなる連携を探っていく次第です。

昨年に引き続き、弓ヶ浜セミナーコーナーとして、2016年に発表された2件の研究について報告させていただきます。2件とも身近な話題に関する内容で、1件は境港市出身の門脇重綾の和歌の魅力について、もう1件は山間奥地の機能維持の実態についての報告です。セミナーにおける講演内容を文章にて眺めて頂き、これらの研究分野を楽しんで頂ければ幸いです。

以下、今回の弓ヶ浜セミナーコーナーにおける2本の論文の概要です。

◆第8回弓ヶ浜セミナー（2016年3月24日開催）

題名：門脇重綾と和歌

著者：渡邊 健（教養教育科・国語）

本稿では、境港市出身で、生誕190年の門脇重綾についておよびその和歌の魅力について論じられる。前半は重綾のおいたちについて論じられる。後半では、没後に刊行された重綾の和歌集『蝮園集』について、また関係する人々について論じられる。

◆第9回弓ヶ浜セミナー（2016年9月26日開催）

題名：山間奥地の集落から人口減少社会で土地や建物を維持管理する方法を学ぶ

著者：小椋 弘佳（建築学科）

本稿では、山間奥地で衰退が進行している集落と進行していない集落についての調査報告がなされる。特に、山岳信仰集落の機能が衰退しつつあると言える大山寺集落と、一方、機能が比較的維持されている戸隠中社集落の土地利用管理の実態についての調査ならびに考察について論じられる。

以上、弓ヶ浜セミナーコーナーの研究報告を楽しんで頂ければ幸いです。

弓ヶ浜セミナー 世話人
堀畑 佳宏（教養教育科・数学）